

福沢桃介の木曾川開発の集大成

— 運転開始100年を迎えた大井発電所 —

■大井ダム・大井発電所の役割

電力王と呼ばれた福沢桃介(1968~1938)の開発した大井発電所は、わが国初の高堰堤式発電所である。岐阜県知事から水利使用許可を1920(大正9)年3月に受け、約3ヶ年をかけて岐阜県恵那郡蛭川村に建設し、昨年末100周年となる1924(大正13)年12月に運転を開始した。

出力42,900キロワットで、工費2000万円に及び、福沢桃介の手がけた最大の事業であった。木曾川はこの附近になると流れも緩やかとなり、当初計画された「流れ込み式」に代えて堰堤式が採用され、かつ需要変動にも対応できる運転が出来るようにした。発生した電力は関西方面に送られ、その需要にあてられた。



大井ダムと大井発電所

撮影：2020年

■1500万ドルの外債発行と「独立自尊」の碑

建設中の1923(大正12)年9月、関東大震災が発生し、国内金融は逼迫、資金の調達が困難になった。福沢は若い時期、北海道炭礦鉄道での外債発行を担当した経験を生かし、アメリカのディロン・リード商会との間で米貨債1500万ドルの発行についての話をまとめた。事業が継続できるかどうか、瀬戸際の交渉であった。外債発行のため1924(大正13)年5月横浜港を出航、困難な交渉の末、同年7月18日に本契約の調印が行われた。売り出しを見届けて、8月23日に帰国した。



福沢諭吉「独立自尊」碑 撮影：2006年

福沢桃介は、大井発電所の完成を記念して「独立自尊」という岳父福沢諭吉の言葉を記した記念碑を建立し、その近くに設置された発電所起功碑には「普明照世間」と観音経の一節が刻まれている。

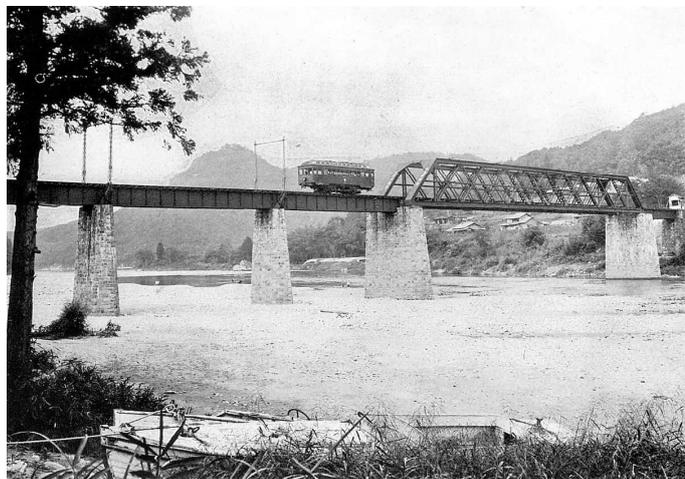


(券背) 債外回二第同大

大同電力第2回米貨債
出典：師尾誠治『事業金融人物：大同電力二十年金融史考』

■北恵那鉄道の設立

岐阜県は水利使用の許可にあたり、付知川沿いにある裏木曾御料林の運材用に森林鉄道の建設を命じた。当時地元では、中津・下呂間を結ぶ濃飛鉄道が計画していたが、資金調達で行き詰まっていた。森林鉄道計画を聞き知った中津町は、一般乗客や貨物輸送も行う地方鉄道の敷設を求めた。地元の要望に応え、1919(大正8)年4月、地方鉄道として鉄道敷設免許を申請(1921年5月免許)し、1922年2月、北恵那鉄道(社長福沢桃介)が設立され、1924年8月、中津・付知間22.1kmの路線が開通した。



木曾川を渡る北恵那鉄道

写真：public domain

【ご案内】2025年3月25日、大井ダム・大井発電所の見学会を開催します。
ご希望の方は、受付にある見学案内と申込書のチラシをご覧ください。

(浅野伸一)